

まるさん通信

Vol. **13**
2026.6

気軽に相談できる不動産屋「丸三」が、
不動産にまつわる情報をお届けします。



CONTENTS

01.Column

受け継いだ想いを未来へ

02.丸三TALK

会長が次世代に遺した
「丸三イズム」とは

03.丸三からのお便り～13通目～

from 不動サポート業務 柴田 文子

04.ご縁のあるエピソード

番外編 会長との思い出エピソード

●最新物件情報

「〈建築条件なし〉2つの大型分譲地販売中」

●丸三NEWS

「公式インスタグラム続々と更新中です！」

受け継いだ想いを未来へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

弊社会長であり、私の父でもある和田晃(わだ あきら)が、去る令和8年2月28日に逝去いたしました。生前、皆様から賜りました温かいご厚情に深く感謝申し上げます。

昭和44年の創業以来、長年にわたり丸三を温かく支えてくださったお客様、そして地域の皆様には、言葉では尽くせないほどの深い感謝申し上げます。会長と母が築き上げてくれた皆様との大切なご縁は、私たちの何よりの財産です。

本号では、創業者である父の背中を振り返りながら、私の中にある「丸三」の歩み、そしてこれからの決意を綴らせていただきたいと思います。

幼少期の記憶に刻まれた「丸三」と「父の姿」

私が幼い頃、両親は8畳ほどの小さな事務所で朝から晩まで働いていました。父のノーネクタイにサンダルという姿が今でも思い浮かびます。あの頃は、お客様が少ない時期でも、お盆と正月を除いて店を開け続けていたと聞いています。今振り返ると、この「どんな時でも店を開け続ける」という姿勢こそが、現在の丸三の揺るぎない基盤を築いた礎だったのだと感じます。

その後昭和58年に、現在の事務所に建て替えてからは、タバコや雑誌の販売、自動販売機の設置など、多角的な取り組みにも挑戦しました。試行錯誤の末に不動産業1本へと事業を絞っていきましたが、それは父なりの「この仕事で生きていく」という覚悟の表れだったのだと思います。幼いながらも、懸命に働く両親の背中を見続けた経験が、私の中に「丸三」という存在を深く根付かせる原点となりました。

入社後の葛藤と、父が背中 で示した「丸三イズム」

私は平成14年に入社し、平成19年より代表取締役を務めております。当時は両親が後ろにいてくれる安心感がありましたが、7年前の母の退職、父の昨年の引退と本年2月の逝去を経て、この3ヶ月はこれまでにない重圧と孤独を感じる時間となりました。経営の最終判断をすべて自らが担う責任の重さを、あらためて痛感しております。

そんな中で私を支えてくれたのが、今から10年ほど前、高齢になっていく両親の姿を見て会社の未来に危機感を覚え、迎え入れてきた新たな

仲間たちです。現在は5名のスタッフに支えられており、この街の小さな不動産会社を選んでくれたことに、心から感謝しています。

経営者としての孤独が完全になくなることはありませんが、彼らの存在が大きな支えとなり、前を向く力を与えてくれています。

父は多くを語る人ではありませんでしたが、「相手の顔を立てること」

「現場をよく見ること」

「無理な営業はせず、細く長く続けること」

「仕事があなくても毎日店を開けること」

そうした大切な姿勢を、その生き方そのもので教えてくれました。

現在は、その教えを会社のビジョン(将来のありたい姿)やバリュー(価値観)として言語化し、組織全体に浸透させる取り組みを進めています。私自身も先頭に立ち、父の意思を受け継ぐ存在として、日々の業務に真摯に向き合っておりま

これからの丸三。 紡いだご縁を次の世代へ

丸三は現在、創業57年を迎えています。バブル崩壊やリーマンショック、そしてコロナ禍といった数々の困難を乗り越えることができたのは、会長と母が築いてきた皆様とのご縁に支えられてきたからに他なりません。

これからの私の使命は、大切な仲間たちとともに新たなご縁を紡ぎながら、父の教えである「細く長く、誠実に続ける経営」を組織に根付かせ、次の世代へと確かな形で引き継いでいくことです。

どのような困難が待ち受けていようと、信頼できる仲間とともに乗り越えていけると信じています。そしていつか、天国で両親に再会した際に、丸三の歩みを胸を張って報告できるよう、これからも一步一步、誠実に歩み続けてまいります。



代表取締役

和田 崇 Takashi Wada

【出身】横浜市旭区

【保有資格】宅地建物取引士、
公認不動産コンサルティング
マスター、相続対策専門士、
賃貸不動産経営管理士

会長が次世代に遺した「丸三イズム」とは



会長との出会い、第一印象は？

柴田: 私は初出社の日に、会長と奥様に出迎えてもらったことを今でもよく覚えています。満面の笑顔で「よく来たな」って。

齋藤: 会長といえば、あの明るい笑顔ですよね。私と一緒したのは半年ほどですが、「早く帰ろう」と毎日声をかけてもらいました。

越野: 僕と社長は丸三に入社する前に同じ職場で働いていたんですが、和田(崇)社長がそこを退職するときに会長が「息子がお世話になりました」と挨拶に来られて、そのとき

初めてお会いしました。

和田: そうでした、そうでした。退職の日に父がやってきて、私が応接室に通したんですよ。

上司に「あの、丸三の社長が来てます」と伝えたのを覚えています(笑)

越野: 何て腰の低い方なんだろうと驚きでしたね。

思い出から浮かび上がる会長の姿

越野: 会長は、経歴がかなり謎に包まれていたと思います。調理師免許があって、東京のレストランで働いていたこともあるんですよね？

柴田: 私が聞いた話では、調理師免許の書類を取りに行ったら、その隣に宅建の書類もあって、「じゃあ、ついでに取っておくか」という流れで、全然違う2つの資格を取ったとか。

和田: そうなんです。資格取得のハードルが低かった時代ならではのエピソードですよね。ただ、レストランのほうは、実際働いていたのは3か月程だったようです。そんな短期間の仕事の思い出を、あれほど濃密に語れる人も珍しいと思います(笑)

齋藤: 料理に限らず、会長は手先が器用で、手仕事が得意だった印象です。庭づくりがお好きでしたよね。

和田: そうそう。自宅の庭も相当に手をかけて大切にしていました。ある幼稚園の門扉脇の庭づくりを任せられたときも、とても嬉しそうでした。

会長の姿に見るプロの仕事

柴田: 越野さんは会長と一緒に現場に行くこともありましたよね？

越野: はい。現場に行くと、土地の境界石を探ることがありますが、だいたい草が伸びた荒れた土地で、境界が見つからないんです。

和田: そういう現場は測量士さんに任せようと思ってしまいますよね。

丸三 FROM Marusan's Members TALK

丸三のスタッフが集まって和田会長と過ごした日々を語り合いました。



越野: でも、会長はどこから竹箒を持ってきて、地面をササッとかがき分けて言うんですよ。「ほら、ここにちゃんと境界あるよ」って。本当にすごいと思いましたね。

柴田: 私は、よく会長と一緒に事務所で留守番をしていました。2人でみかんを食べたのもいい思い出です。丸三の事務所は、道を尋ねようとフラックと入ってくる人も多そうですね。会長はどんな質問にもすぐに答えを返すことができました。それが本当に心強くて。

齋藤: 会長は、三ツ境のことに誰よりも詳しくかったですよね。

受け継がれる会長のレガシー

和田: 私は二代目として、父や母が積み上げてきた仕事の哲学「丸三イズム」を、会社の礎にしたいという想いがあります。最後に皆さんからも、会長から受け継いでいきたいものについて聞かせてもらえますか？

齋藤: 私は会長の温かい人柄をとても尊敬していて、その人柄に惹かれて丸三に足を運んでくださる方も多かったのかなと思っています。だから、会長の元気な挨拶や笑顔を受け継ぎたいと思いました。

柴田: そうですよね。もう会長が

丸三の事務所にいないということを、まだ知らない方もいると思います。せっかく来ていただいた方を寂しい気持ちにさせないように、残された私たちが会長の明るさを受け継いでお出迎えすることが大切なんじゃないでしょうか。

越野: 会長がいなくても、「丸三はまだここにいます」と。



丸三からの お便り

13 通目

丸三に入社してからを振り返り、
皆様に支えられて過ごした8年間についてをお話いたします。



不動産サポート業務 柴田 文子

2018年の11月に丸三に入社してから早8年が経とうとしており、月日の流れのはやさに日々圧倒されています。

以前はアパレル業界に勤めていましたが、事務職に転職をしようと求人サイトを見ていたところ、たまたま事務員を募集していた丸三を見つけて応募しました。初めて丸三を訪れた時は、不動産屋とは思え

ないあったかい雰囲気でした。今でも、まるで「おばあちゃん」にきたような感覚になったのを覚えています。

緊張している中、会長の奥様が温かいお茶を出してくださり(今でも丸三がお出している自慢の美味しいお茶です!)面接に来たのに、こんな風に迎え入れてくれる会社があるんだと嬉しかったのと同時に、驚きもありました。

不動産業界は全くの未経験だった私が、これまで丸三に勤めてこられたのも、社長をはじめ、会長や奥様、一緒に勤めていた仲間たちと支えてくださるお客様のあたたかさや、優しさがあったからこそだと思います。

今では街中でお客様と出会ったときに、挨拶すると笑顔で返して下さる方がたくさんいます。事務所でも「こんなことがあったんだ」と日常のお話を聞かせてくださる方や、時には四葉の

クローバーを届けてくれる方もいます。一つひとつが、私にとって大きな励みになっています。

現在の丸三では、私の入社当時と働くメンバーが変わっていますが、丸三という会社としては変わらず三ツ境の街の不動産屋として皆様との繋がりを大事に、これからもこの場所にあり続けたいと思います。

貸主様・借主様・不動産会社の協力で、より良い環境になると思います。これからも、住まいをつなぐ役割として頑張っていきたいと思っています。



いただいたクローバーは押し花にして大切にしております。

ご縁のあるエピソード

番外編 会長との思い出エピソード

2月にこの世を去った和田晃会長を、多くの方に偲んでいただき、誠にありがとうございました。皆様からお聞かせいただいた心あたたまるエピソードを、この場を借りて共有させていただきます。



小さい頃からの
お付き合いがある親族

W様

会社が大きくなっても「W様のおかげ」が口癖だった謙虚な晃ちゃん。相続や土地売却、福祉施設の紹介などあらゆる面に詳しく、とても頼りになる存在でした。植木のために早朝から木に登り、車のトランクには常に草刈り道具を積んでいる、本当に好きなことに熱心な人でした。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」この言葉を、謙虚な晃ちゃんに贈ります。

事業所用地の取得を
お手伝いさせていただいた

A様

私は会長のお父様(現社長の祖父)の教え子で、会長とは30年以上のお付き合いでした。事業用地の下見で山に行った際、どんどん先へ進む会長の体力に驚かされたことを懐かしく思い出します。丸三さんには多くの土地やお客様をご紹介いただき、近隣交渉など不動産業の枠を超えた多大なご協力のおかげで事業拡大ができ、感謝の思いでいっぱいです。

植木剪定の師匠として
慕って下さっていた

K様

相続税のための土地売却を助けてくれた恩人であり、自宅の植木の剪定を教えてくれた師匠でした。不動産屋のイメージを覆す親しみやすいお姿や、定休日の朝早くから白ヘルメットと作業着姿で訪れ、鼻歌交じりに楽しそうにハサミを握っていた姿が目につかびます。空の上から手がけた植木を眺め、理想の庭をつくり続けて、楽しんでほしいです。

最新物件情報

《建築条件なし》2つの大型分譲地販売中《

丸三としては久しぶりに大型分譲地の販売を取り扱っています。どちらも125㎡を超える区画サイズと2台の駐車スペースを設けたゆとりのある敷地面積が魅力です。

[18区画] 瀬谷区宮沢二丁目分譲地

ゆったり落ち着いて暮らせる
自然が多く静かなエリア



※現地の写真は2026年3月に撮影されたものです。

詳細は
WEBサイト
をご覧ください



[10区画] 旭区さちが丘分譲地

南ひな壇の立地を活かした
日当たり良好な街



※現地の写真は2026年3月に撮影されたものです。

詳細は
WEBサイト
をご覧ください



※成約した区画は2026年6月2日時点での情報です。



株式会社 丸三

お問い合わせはこちら

TEL:045-363-0003

FAX : 045-391-0303

LINE

LINE公式アカウント 始めました

お気軽にお友達追加してください。



丸三NEWS



公式Instagram 続々と更新中です！



三ツ境エリアを中心に、暮らしに役立つ地域情報や住まいに関する情報を発信しています。ぜひご覧いただき、日々の暮らしが少し楽しくなるヒントになれば幸いです。



「三ツ境の魅力」コンテンツでは、スタッフが実際に自分たちで撮影した写真でご紹介しています。その場の空気感まで伝わるリアルな情報を、ぜひのぞいてみてください。

